

ロシア 東欧 経済速報

社団法人 ロシア東欧貿易会 東京都中央区新川1-2-12 金山ビル 郵便番号104 電話 (3551) 6215~9
ロシア東欧経済研究所 [購読料・送料共前納 1ヶ月-1,500円 1ヶ年-18,000円]

1996年(平成8年)6月5日 No. 1024

目次

ロシアの為替政策の新展開.....	服部倫卓	1
シリーズ ロシア大統領選を追う(11)		8
キーパーソン(ウクライナの首相交代ほか)		9
CIS諸国通貨の最新為替レート.....		10

ロシアの為替政策の新展開

はじめに ロシア政府と中央銀行は5月16日、ルーブル・レート設定の新方式を発表した。従来モスクワ銀行間外貨取引所の相場を公式なレートとして適用してきたが、17日からは中銀が毎日「公定レート」を制定する。また、昨年7月に導入されたルーブルの目標相場圏に代わって、今年7月からはスライド式の新たな変動幅が設定される。同時に、エリツィン大統領はロシアがIMF 8条国に移行するという方針を表明した。

ロシアでは、政策当局の経済安定化路線を受け1995年春から為替市場が安定し、ルーブルの目標相場圏導入でその流れが一層確かなものとなった。しかし、実質的なルーブル高が進行したため輸出主導の経済回復が壁に突き当たり、当局は難しい舵取りを迫られるようになった。今年6月末に目標相場圏が終了することから、それ以降どのような為替政策を実施していくかが焦点となっていた。

本稿ではまず、旧来のルーブル・レート設定方式を再確認し、そのもとでの為替市場の展開を回顧する。そのうえで、今回打ち出された為替政策および新制度を解説し、その背景を探ることにする。

1. 旧来の為替制度とルーブル相場の展開

旧来の為替制度 今回の新政策導入に至るまで実施されてきたルーブル・レート設定方式は、1992年7月に導入されたものである。これは、モスクワ銀行間外貨取引所の火曜、木曜の取引で